

エゾシカが目立ち始めました ~ドライバーさん、気をつけて~

3月なのにすでに春と思わせる陽気を感じさせるこの頃。ここ知床の積雪量も平年と比べ数十センチは少なく、既に道路沿いの法面では地面が露出し始めています。

この時期、斜里とウトロを結ぶ国道を走るドライバーは必ずといっていいほど道路脇で露出した草を悠々と食むエゾシカを見かけることになります。それも1頭や2頭ではなく、数十頭単位で…。

雪が少ないことはエゾシカにとってはうれしいこと。でも増えたシカによる採食圧の増加は、地域の植生に大きな影響を与えます。シカが好む種類の植物は急激に数が減って、最近めっきり見かけなくなりました。以前は食べないとされていた種類にも手を出し始めつつある傾向も見られます。

「増えすぎたエゾシカをどうするか」。この問題については現在、専門家の間で人為的な頭数調整を試験的に行う方策について議論が交わされています。

エゾシカ増加の原因の一つとして、以前ほど大雪が降らなくなっていることが指摘されています。地球温暖化の影響が多方面に亘っていることを実感するこの冬です。

この冬食べられたキハダ

アマニに注意!! 暖冬の影響か、今年は2月下旬からヒグマの目撃情報が報告されているそうです。

ヒグマは基本的に人間を避けて行動します。そのため、散策の際には鈴や笛を鳴らしながら歩く等、人間の存在をアピールすることにより、ほとんどの場合ヒグマとの遭遇を回避することができます。また、3~4月は餓死するエゾシカが目立つ季節ですが、こうした死体のすぐ側には、死体に餌付いたヒグマが潜んでいるかもしれません。エゾシカの死体を見つけた、または腐敗臭に気づいた時は、すぐにその場から離れましょう。

大切なのは、ヒグマと出会わない工夫をすることです。



糞や足跡など生きしい痕跡の近くにはヒグマがいる可能性が…

いざという時の味方、クマスプレー。知床自然センター等で借りることができます(有料)



知床の樹木

キタコブシ

キタコブシはモクレン科で山地や沢沿いに生える落葉広葉樹です。4~5月に直径12cm程の白色の花を咲かせます。

昔、農村ではコブシの花を曆代わりにしたそうで、この花が咲くのを見て苗代を作ったり種をまいたりした農業の指標木になっていたそうです。コブシとは「拳」のことで花の蕾の形が拳に似ているという説と実の形が似ているという説の2説があります。

2月に撮影した上の写真はキタコブシの「花芽(かが)」です。これは将来花になる芽のことで、すでに春の準備をして北国の冬を乗り越えようとしているのです。花芽は毛に覆われ太陽の光を反射して輝いているように見えます。

キタコブシは葉が出る前に白く目立つ花を咲かせ、雪融けしたばかりの茶色い世界に白色の彩りを添えます。そんな風景を見ていると知床の厳しい冬が終わり、やっと春が到来すると思わせる季節感を強く感じさせる樹木です。



平成19年3月発行 第106号

(写真:古の道を歩くスキーで進む)

北海道森林管理局 知床森林センター
〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地
電話 0152-23-3009 FAX 0152-23-3160
ホームページ <http://www.shiretoko.go.jp/>



知床は今



例年よりまばらな流氷

知床も冬の盛りを過ぎ、うららかな日が多くなり春を迎えつつあります。平年並みの1月中旬に姿を現した流氷は、3月にかけ、例年のように海一面を埋め尽くし居座り続けることもなく、氷が海面に漂って風が吹くと沿岸から離れたり近づいたりと不安定な動きを繰り返しました。

斜里からウトロへ向かう国道沿いの海岸では冬期間を通してオオワシやオジロワシの姿がよく見られました。海が流氷で埋め尽くされると魚などの餌が採りづらくなり羅臼側に移動し殆ど姿が見られなくなるのですが、今年は氷の勢力が弱く海面が出ていているためでしょう。

全国的に今年は記録的な暖冬と報道されていますが、知床もやはり暖かく、例年はマイナス15度から20度と冷え込む日が続くのですが、今年はあまり気温が下がらず冷えても長続きしません。

生活していて暖かいととても身体が楽で良いのですが、地球規模で気温が高くなると生態系に色々問題が出てきて、過ごしやすいと喜んでばかりはいられません。一時的な気象現象なら良いのですが、私達の経済活動により排出される二酸化炭素(CO₂)が原因の地球温暖化現象の表れであるならば問題です。

徐々に進行する地球温暖化は、なかなか我が身のこととして捉えづらい面がありますが、このような異常気象はある意味、一人一人が危機意識を持つ良い機会になるとも考えられます。地球温暖化防止には各自が省エネに心懸けることに加え、国産材、特に間伐材を積極的に利用するなど、CO₂を吸収してくれる森林を健全に取り扱うための取組みも重要です。

早くに進んだ雪融けで多くのエゾシカたちを道路脇で見かけるようになりました。温暖化の進行は大雪を減らしエゾシカの増加に拍車をかける恐れもあります。

温暖化対策は知床の自然とも密接に繋がっています。



枯れ草を食べるエゾシカたち

第81回
森林レクリエーションin知床
「早春の知床ウォッキング！」

2月の知床は厳冬期、流氷が訪れ一年で一番冷え込む季節です。そんな時期でも森の中に隠れた「早春」を見つけに行こうと2月18日(日)に企画されたこのイベント。60代を中心とした20名の方にご参加頂きました。当日は風もなく、青空が広がる絶好のコンディション。スタート地点となるオシンコシン高台からは真っ白に雪化粧した知床連山も望めました。

この時期の森林の中は葉も落ちて見通しが利きます。葉っぱが落ちて天高くそびえるエゾマツしまうと樹木も見分けづらいものですが、センター職員から樹皮や枝ぶり、枝に付いている種等の特徴についての解説を受け、木々の違いについて理解を深めて頂きました。

また、現地はオシンコシンのアイヌ語の意味でもある「エゾマツの群生するところ」の通り、知床では珍しいエゾマツを多く見ることが出来ました。コースの途中では、雪面に残る足跡といった動物の痕跡だけでなく、実際にカケスやゴジュウカラといった野鳥の姿を見ることが出来ました。その中でも天然記念物であるクマゲラが姿を現してくれたり、空を見上げるとオオワシが翼を広げ悠々と舞っていました。

そんな中、一番多く出会った動物はやはりエゾシカでした。スタートからゴールまで、何度も私達の前に姿を現し、その足跡も雪面に幾筋も残されていました。スキーを進めるときコース上になにやらエゾシカの毛が散らばっていました。その先にはエゾシカの足と骨が見つかり、その脇に力尽きたであろう子ジカの死骸がありました。他の動物に食べられた跡もあり、ショッキングな光景でしたが、冬の知床を生き抜く野生の厳しさと、動物達の命のやりとりを参加者の皆さんに肌で感じて頂けました。

途中、林間から流氷も垣間見え、この時期ならではの知床らしい風景を楽しんで頂きました。3時間以上かけてゆっくりと散策を楽しみましたが、葉の茂る時期とは違った森林の一面に触れて頂き皆さん満足の様子でした。

知床の四季、お届けします。

知床森林センターでは、知床の森に関する季節の情報をホームページ上でブログ形式にして、写真付きで公開しています。ここでは、その一部を紹介します。



(2007-02-06) 雪の上に落ちたトドマツの小枝。実はこれ、エゾモモンガの食べ残しです。

(2007-02-14) オシンコシンの滝近くの高台から望む、一面の流氷と知床連山の姿です。

(2007-02-22) 厳冬期の森で、春の訪れをじっと待つケヤマノキの雄花です。

詳しくはHP (<http://www.shiretoko.go.jp/>) のブログをクリック！



大木の脇を抜ける



天高くそびえるエゾマツ



コース上で見つけた足と骨

3月なのに
ホカホカ陽気？
~暖気の影響で、
イベント中止に~

全国的な暖冬傾向は知床も例外でなく、3月6日(火)には気温が8度まで上がり、一気に雪融けが進みました。そのため3月8日(木)に予定されていた歩くスキーのイベントはやむなく中止に。一旦融けた雪が再び凍り、スキーで歩くには危険な状況という判断からでした。

当センターの歩くスキーのイベントがこのような理由で中止になったのは、過去にも例がないことです。地球温暖化が原因ともいわれる今年の暖冬。この機会に温暖化と森林の関係について考えてみませんか？

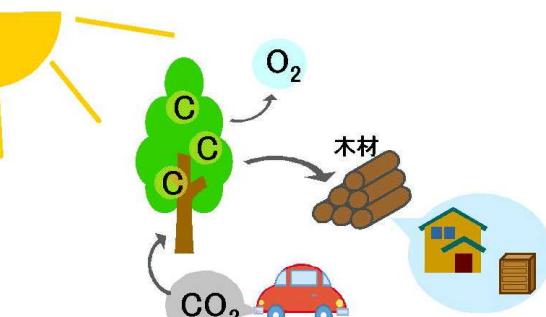
森林は、地球温暖化防止の救世主！？

樹木は光合成によって、地球温暖化の原因物質の代表である二酸化炭素(CO₂)を吸収し、幹や枝等に炭素(C)として閉じこめています。日本の森林が1年間に吸収するCO₂は約9700万トン。これは国内の全自家用車が排出するCO₂量の7割に相当します。つまり、森林はCO₂の貯蔵庫として重要な役割を果たしているのです。温暖化の防止には、森林ができるだけたくさん炭素を貯蔵できるように、健全な森林を育てていくことが有効です。

私達の生活において健全な森林づくりに関わるには...。なにも直接山に入らなくても、木材、特に国産材を積極的に使うことで間接的な森林づくりに貢献することができるのです。

どうして、木材を使うと良いの？

木材が住宅や家具などに形を変えても、光合成で吸収・固定したCO₂は炭素のかたちで閉じこめられたままです。その上、木材を得るために伐採した跡地に再び植林すれば、新たなCO₂の貯蔵庫を作ることができます。さらに、木材を作るときに必要なエネルギーは、鉄を作るときの80分の1。木材をたくさん使用し、計画的に木材生産と植林を繰り返していくれば、炭素を発生させる量も少ない上に、森林は健全な状態で維持され、たくさんの炭素が樹木と木材製品の中に閉じこめられます。



木材のこんな使い方が特に有効的！

木材を燃料として利用する

木材を燃やして利用することは、一見地球温暖化防止とは相反するように感じるかも知れません。でも、木材を燃やした時に発生するCO₂はもともと樹木が光合成をする時に大気中から固定したもの。木材はCO₂の増減に影響を及ぼさない(カーボンニュートラル)、環境に優しい燃料であるといえます。最近は、木材を利用したストーブとしてペレットストーブが注目されています。



日本は京都議定書で定められたCO₂削減量6%のうち、約2/3にあたる3.9%を森林による吸収でまかなう計画です。3.9GREENSTYLEはCO₂を吸収してくれる日本の森林に感謝(サンキュー)しながら、国産材製品を身近に取り入れることにより温暖化の防止に貢献しようという、ライフスタイルの提案です。

間伐材を積極的に利用する

間伐(=樹木の間引き)は、健全で活力ある森を育てていく上で、必要不可欠な作業です。しかし、不採算性のため、間伐が必要であるにも係わらず放置されている森林が多く残っています。間伐材がもっと使われるようになれば、このような森林の手入れに繋がっていきます。間伐材を使用した製品の目印・間伐材マーク

